

はじめに

BladeSymphony SPは、オプション品である「BladeSymphony SP用管理サーバ」の有無により、セットアップ手順が異なります。
お客様がお買い求めになられたシステム構成を下記A>B>Cの3パターンから選択してください。以降、選択いただいたA>B>Cマークの記載がある項目をセットアップしてください。

システム構成パターン	システム構成内容	システム構成図
A	BladeSymphony SP (本体)と同時に、オプション品の「BladeSymphony SP用管理/バックアップサーバ HA8000/TS10」をご購入いただいた場合	
B	BladeSymphony SP (本体)と同時に、オプション品の「管理サーバブレード」をご購入いただいた場合	
C	BladeSymphony SP (本体)のみご購入頂いた場合 ※管理用PCまたはサーバが必要、またはお客様で管理用PCまたはサーバをご準備される場合	

- セットアップの手順は下記の順番を必ず守ってください。手順を間違えますと、正しくセットアップできません。
- セットアップ作業開始前に製品添付のユーザーズガイド CD-ROMに格納されている「BladeSymphony SPユーザーズガイド」内の「安全にお使いいただくために」および「1章 お使いになる前に」を必ずお読みください。
- より詳細な内容については製品添付のユーザーズガイド CD-ROMに格納されている「BladeSymphony SPユーザーズガイド」および「BladeSymphony SPソフトウェアガイド」を参照ください。
- 本セットアップガイドは、Windowsインストール済のHDDレスサーバブレードをご購入されたお客様を対象としています。お客様ご自身で各HDDレスサーバブレードにWindowsをインストールされる場合は、製品添付のユーザーズガイドCD-ROMに格納されている「BladeSymphony SPソフトウェアガイド」を参照し、インストールしてください。

登録商標・商標について

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-Vは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

版権について

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

Copyright © Hitachi, Ltd. 2008. All rights reserved.

用語の説明

管理LAN：管理サーバと、マネジメントモジュール及びブレード管理コントローラ(BMC)をつなぎ、BladeSymphony SPの管理を行うLANです。
お客様の業務用のLANとは別に設置されます。

JP1/SC/BSM : JP1/ServerConductor/Blade Server Manager Plusの略です。

JP1/SC/Agent : JP1/ServerConductor/Agentの略です。

HDDレスサーバブレード：お客様の業務が稼働するサーバブレードです。

管理サーバブレード：JP1/SC/BSMが稼働しBladeSymphony SPを管理します。

BMC : HDDレスサーバブレードを管理するコントローラです。

Windows Server 2008 Standard/Enterprise : Microsoft® Windows Server® 2008 Standard/Enterprise 日本語版の略です。

Windows Server 2008 Standard/Enterprise without Hyper-V : Microsoft® Windows Server® 2008 Standard/Enterprise without Hyper-V™ 日本語版の略です。

Windows Server 2003 R2 Standard/Enterprise Edition : Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard/Enterprise Edition 日本語版の略です。

Windows Server 2003, Standard/Enterprise Edition : Microsoft® Windows Server® 2003, Standard/Enterprise Edition 日本語版の略です。

Windows Vista Business/Enterprise/Ultimate : Microsoft® Windows Vista® Business/Enterprise/Ultimate 日本語版の略です。

Windows XP Professional/Home Edition : Microsoft® Windows® XP Professional/Home Edition 日本語版の略です。

Windows 2000 Professional : Microsoft® Windows® 2000 Professional 日本語版の略です。

Windows 2000 Server/Advanced Server : Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server Operating System 日本語版です。

お客様にてご準備いただくもの

お客様にて下記機器をあらかじめご準備ください。

システム構成パターン	項目	員数	備考
A	電源設備	AC100V 5系統	コンセント形状は1章③「電源設備の確認」を参照ください。 ※iSCSIストレージを保守交換する場合は、さらにAC100V 2系統が必要になります。(交換装置とのデータ移行用)
	プラスドライバー	1本	—
B	PCまたはサーバ	1台	リモートコンソール用として使用します。次のリモートコンソール用PCまたはサーバの動作条件を満たすPCまたはサーバをご準備ください。 また、システム構成パターンCの場合には、管理用PCまたはサーバと共にできます。この場合は、 管理用PCまたはサーバの動作条件も満たしてください。
	LANケーブル	1本	カテゴリー5以上の規格に対応したLANケーブルをご準備ください。

<リモートコンソール用PCまたはサーバの動作条件>

項目	動作条件
サポートOS	サーバ
	PC
CPU	動作クロック1GHz以上
	メモリ
表示解像度	256MB以上
	1,024x768ドット以上
ネットワーク	100Base-TX以上
	CD-ROM/DVD-ROM
ドライブ	PCまたはサーバ内蔵のCD-ROM/DVD-ROM
	または、USB接続のCD-ROM/DVD-ROM
CD-ROM/DVD-ROM	USB接続のCD-ROM/DVD-ROM
	または、準拠のドライブを推奨

<管理用PCまたはサーバの動作条件>

項目	動作条件
サポートOS	サーバ
	PC
CPU	Windows Server 2008 Standard/Enterprise (32bit版) *1
	Windows Server 2008 Standard/Enterprise without Hyper-V (32bit版) *1
メモリ	Windows Server 2003 R2, Standard/Enterprise Edition (32bit版) *1
	Windows Vista Business (32bit版) *2
ハードディスク	Windows Vista Business/Enterprise/Ultimate*2 (32bit版) *2
	Windows XP Professional/Home Edition*3 (32bit版) *3
ネットワーク	Windows 2000 Server/Advanced Server SP3以降
	Windows 2003 Standard/Enterprise Edition (32bit版)
CD-ROM/DVD-ROM	Windows 2000 Server/Advanced Server SP3以降
	Windows 2003 Standard/Enterprise Edition (32bit版)

*1 システム構成パターンA/Bでは、Windows Server 2008 Standard/32bit版のみ使用可能です。

*2 コンソールサービス、リモートコントロールビューアのみ利用可能です。

*3 JP1/ServerConductor/Blade Server Manager Plusをご使用になる場合には、サーバOSをご準備ください。

JP1/SC/BSMは使用可能です。

1 A B C 開梱および設置

BladeSymphony SPの開梱および設置時の注意

▲ 溫度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部に結露することがあります。結露した状態で使用すると発煙、発火や感電の原因になります。使用する場所で、数時間そのまま放置してからご使用ください。

▲ 重量物の扱いについて

ラックキャビネットや周辺機器などの重量物を移動したり、持ち上げたりする場合は、無理をせず器具を使用したり、2人以上で注意して取り扱ってください。腕や腰を痛めたり、ラックキャビネットや周辺機器の転倒や故障の原因となります。

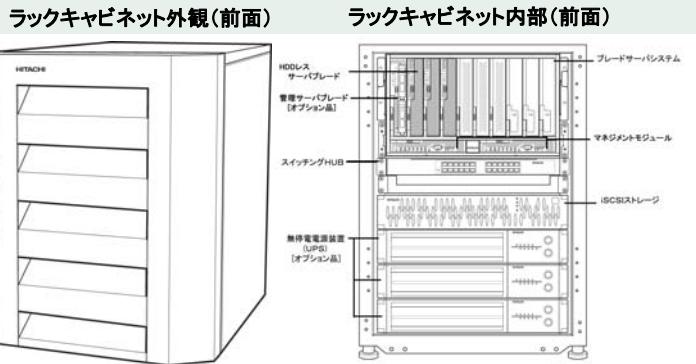
▲ ラックキャビネットドアの開閉について

・フロントドア・リアドアを開めるときに指をはさまれないようにご注意ください。けがをするおそれがあります。
・ラックキャビネット内のケーブルをはさまないようご注意ください。ケーブルの断線により、感電や装置の故障の原因となります。
・フロントドア・リアドアの開閉は静かに行ってください。強く行うと装置の故障の原因になります。
・フロントドア・リアドアは100度以上開けないでください。また、開閉方向以外に無理な力を加えないでください。特にフロントドア・リアドア上部より力を加えないでください。ドアやヒンジを破損するおそれがあります。
・ラックキャビネット内に搭載された装置を引き出した状態のままドアを閉めないでください。ラックキャビネットや装置の故障の原因となりますので、収納されていることをご確認のうえ、ドアを閉めてください。

▲ 設置環境について

傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがをするおそれがあります。

BladeSymphony SPシステム装置外観



2 B C リモートコンソール用PCまたはサーバのセットアップ

リモートコンソール用PCのセットアップ作業手順

① リモートコンソール用PCまたはサーバのIPアドレス設定

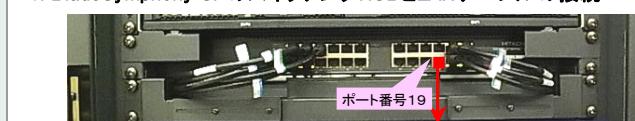
お客様準備のリモートコンソール用PCまたはサーバにIPアドレスを設定します。IPアドレスは、ブレードサーバシステム(マネジメントモジュール)の管理LANと同一セグメントアドレスを使用してください。

…補足 ブレードサーバシステム(マネジメントモジュール)の管理LANを確認する場合は、4章「ブレードサーバシステムの初期設定」の③「管理LANの設定内容の確認」を参照ください。

② LANケーブルの接続

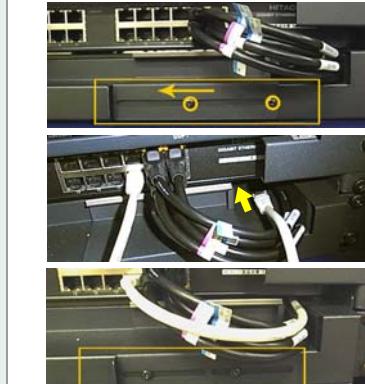
リモートコンソール用PCまたはサーバと、BladeSymphony SPの前面中段にある「スイッチングHUB」のポート番号19を、お客様準備のLANケーブルで接続します。

1. BladeSymphony SPのスイッチングHUBとLANケーブルの接続



LANケーブル(お客様準備)をポート番号19に接続します。

2. ラックキャビネット外へのLANケーブルの引き出し



プラスドライバー(お客様準備)を使用して、黄枠の部分のネジをゆるめ、左にスライドさせます。

他のケーブル同様、LANケーブルを隙間からラックキャビネットの後方にまわします。

左図のように再び黄枠の部分を右へスライドさせ、ネジで固定します。

3. リモートコンソール用PCまたはサーバとLANケーブル接続

上記2でラックキャビネット後方にまわしたLANケーブルは、下記2種類のどちらかの方でラックキャビネットの外に出し、リモートコンソール用PCまたはサーバと接続します。

リモートコンソール用PCまたはサーバ



ラックキャビネット後面上部より外に出す場合
(3章①「電源ケーブルのラックキャビネット外部への引き出し」を参照)

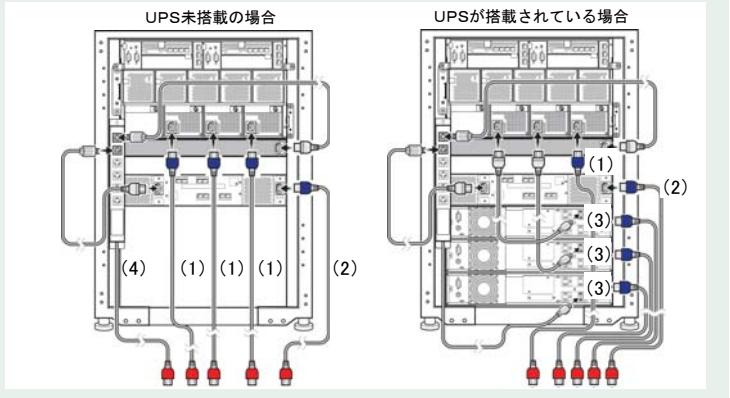
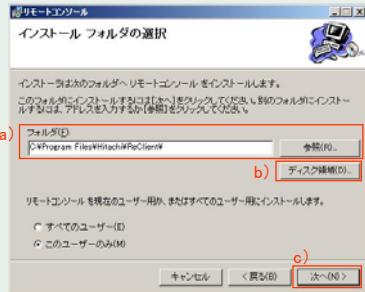
3 リモートコンソールアプリケーションのインストール

以下で説明するインストール作業は必ず管理者権限のあるユーザーで行ってください。

- リモートコンソール用PCまたはサーバのCDドライブに、製品添付のリモートコンソールアプリケーションCD-ROMをセットします。
- リモートコンソールのインストーラが起動し、「リモートコンソール セットアップ ウィザードへようこそ」画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。

[キャンセル]をクリックした場合は、下記「インストールを中止する場合」を参照ください。

4.右の画面が表示されます。



a)リモートコンソールアプリケーションのインストールフォルダを選択する場合は、選択フォルダ欄に直接入力、または[参照]をクリックします。[参照]をクリックすると「[\[フォルダの参照\]](#)」の画面が表示されます。インストール先フォルダを選択し[OK]をクリックします。

b)ディスクの容量を確認する場合は[ディスク領域]をクリックします。
[ディスク領域]をクリックすると「[リモートコンソールディスク容量](#)」の画面が表示されます。確認できたら[OK]をクリックして画面を閉じます。

c)上記の設定が完了したら[次へ]をクリックします。

4.「[インストール確認](#)」の画面が表示されますので、インストールを開始する場合は[次へ]をクリックし、インストールを開始してください。[キャンセル]をクリックした場合は「[インストールを中止する場合](#)」をご覧ください。

5.「[リモートコンソールをインストールしています](#)」の画面が表示され、インストールが開始されます。[キャンセル]をクリックした場合は「[インストールを中止する場合](#)」をご覧ください。

6.「[インストールが完了しました](#)」の画面が表示されましたらインストールは終了です。[閉じる]をクリックしてインストーラを終了してください。

7.インストールが終了すると、デスクトップ上にショートカットアイコンが表示されます。



補足

インストールを中止する場合は、各画面の[キャンセル]または[×]をクリックします。[キャンセル]または[×]をクリックすると「[インストールは完了していません。終了してもよろしいですか?](#)」のメッセージが表示されます。インストールを中止する場合は[いいえ]、インストールを続行する場合は[いいえ]をクリックします。[いいえ]をクリックすると「[インストールは中断されました](#)」の画面が表示されます。[閉じる]または[×]をクリックしてインストーラを終了してください。

3

A B C

電源の入れ方

BladeSymphony SPの各機器で使用する電源ケーブルを下記に示します。

ケーブル番号	品名	ケーブルのイメージ画像	UPS未搭載の場合	UPSが搭載されている場合
(1)	ブレードサーバシステム用電源ケーブル		3本	1本
(2)	iSCSIストレージ用電源ケーブル(AC100Vを使用)		1本	1本
(3)	UPS用電源ケーブル			3本
(4)	コンセントボックス用電源ケーブル			1本

補足

iSCSIストレージにはAC100V用電源ケーブルおよびAC200V用電源ケーブルの2種類が製品添付されていますので、必ずAC100V用電源ケーブルを使用してください。(AC200V用電源ケーブルは使用しません)

4 A B C ブレードサーバシステムの初期設定

ブレードサーバシステム(マネジメントモジュール)の設定操作は、
システム構成パターン **A** の場合 … 管理・バックアップサーバ HA8000/TS10
システム構成パターン **B** **C** の場合 … リモートコンソール用PCまたはサーバより行います。上記のPCまたはサーバ上でInternet Explorerを起動し、ブレードサーバシステムのマネジメントモジュールにログインして各種設定を行います。このため、事前にInternet Explorerの設定を確認してください。設定が適切でない場合、マネジメントモジュールにログインできません。PCまたはサーバ上でInternet Explorerを起動し、「ツール」-「インターネットオプション」をクリックします。以下の設定を確認してください。

- a) ポップアップの禁止設定を解除してください。
※Internet Explorerの設定以外(ブラウザ拡張ツールバー等)のプログラムでも、ポップアップの禁止設定を解除してください。
- b) Javaスクリプトを有効にしてください。
- c) ブラウザはInternet Explorer 6以降をご使用ください。OSの条件は、「はじめに」の「リモートコンソール用PCまたはサーバの動作条件」と同じです。

ブレードサーバシステムの初期設定手順

1 マネジメントモジュールへのログイン

1. PCまたはサーバ上でInternet Explorerを起動します。
2. アドレス欄に「http://<マネジメントモジュールのIPアドレス>」を入力し、[Enter]を押します。
(例) マネジメントモジュールのIPアドレスが192.168.0.1(デフォルト設定)の場合
3. 接続に成功するとログイン画面が表示されます。
何も入力せずに[ログイン]をクリックします。
4. ログインに接続に成功するとマネジメントモジュールのメイン画面が表示されます。

2 ユーザーアカウントの登録

- マネジメントモジュールにログインするためのユーザーアカウントを登録します。
1. メニューから「[ユーザーアカウント](#)」をクリックします。下記画面が表示されますので、[ユーザーアカウント]欄1行目ラジオボタンをクリックし、[編集]をクリックします。
 2. 下記画面が表示されます。次の表を参考に必要事項を入力し、[適用]をクリックします。

項目	説明
[最新の状態に更新]ボタン	設定情報の再読み込み
マネジメントモジュールIPアドレス	マネジメントモジュールのIPアドレス
マネジメントモジュールサブネットマスク	マネジメントモジュールのサブネットマスク
マネジメントモジュールデフォルトゲートウェイ	マネジメントモジュールのデフォルトゲートウェイ
サーバブレード0~6IPアドレス	サーバブレード0~6の管理用IPアドレス 各ブレードサーバへのリモートコンソール接続用IPアドレスとして、5章①「サーバブレードへのリモートコンソル接続」で使用します。
[適用]ボタン	設定内容確認画面へ遷移します。ただし、設定内容に不備がある場合は、不備のある項目が赤で表示され設定内容確認画面には遷移しません。
[キャンセル]ボタン	全入力項目を直前の設定値に戻します。
一括入力開始IPアドレス	サーバブレードの管理用IPアドレスを一括入力することができます。そのため最初の管理用IPアドレスを入力します。
[一括入力]ボタン	サーバブレードの管理用IPアドレスが未設定の場合のみ有効です。「一括入力開始IPアドレス」欄に管理用IPアドレスを入力した状態で[一括入力]ボタンを押すと、サーバブレードが搭載されている[サーバブレード0~6IPアドレス]欄に連続したアドレスを自動入力します。IPアドレスの妥当性のチェックは行いませんので、有効なIPアドレスが入力されたかを確認してください。

項目	説明
2. 設定変更する場合は、各項目に入力し、[適用]ボタンをクリックします。設定確認画面が表示されますので、設定値に問題がなければ[設定反映]ボタンをクリックします。キャンセルする場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。	設定内容確認画面へ遷移します。ただし、設定内容に不備がある場合は、不備のある項目が赤で表示され設定内容確認画面には遷移しません。

2. 設定変更する場合は、各項目に入力し、[適用]ボタンをクリックします。設定確認画面が表示されますので、設定値に問題がなければ[設定反映]ボタンをクリックします。キャンセルする場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

- 4 **Blade Server Manager連携の設定内容の確認**
- マネジメントモジュールは、ブレードサーバシステムの各サーバブレードや各モジュールの稼動状態および障害情報を収集し、管理用PCまたはサーバにインストールしたJP1/SC/BSM(7章参照)に通知します。そこで、あらかじめマネジメントモジュールにJP1/SC/BSMと通信するための設定をします。本設定内容の確認や設定変更する場合は、マネジメントモジュールにログイン後、下記「Blade Server Manager連携設定」画面にて行います。

シートNo.2からの続き

- メニューから[Blade Server Manager連携]をクリックします。「Blade Server Manager連携設定」画面が表示されます。



項目	説明
[最新の状態に更新]ボタン	設定情報の再読み込み
サーバ名(1~4)	管理用PCまたはサーバのニックネーム 半角英数字、記号(最大15文字)
IP アドレス(1~4)	管理用PCまたはサーバのIPアドレス
ポート番号(1~4)	アラートで使用するポート番号(デフォルト:20079) 半角数字(最大5文字)
[適用]ボタン	設定内容確認画面へ遷移します。ただし、設定内容に不備がある場合は、不備のある項目が赤で表示され設定内容確認画面には遷移しません。
[キャンセル]ボタン	全入力項目を直前の設定値に戻します。
[削除する]チェックボックス	設定を削除する場合にチェックをつけます。設定の削除は設定番号の大きい設定から削除するようにしてください。
[推奨値入力]ボタン	Blade Server Manager連携設定の推奨値をフォームに入力します。デフォルトは下記の通りです。 ・サーバ名: BSM_1~4 ・ポート番号: 20079

補足 設定画面の「管理サーバー1」に対する設定のみ行ってください。

2.設定変更する場合は、各項目に入力し、[適用]ボタンをクリックします。設定確認画面が表示されますので、設定値に問題がなければ[設定反映]ボタンをクリックします。キャンセルする場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

③ マネジメントモジュールからのログアウト

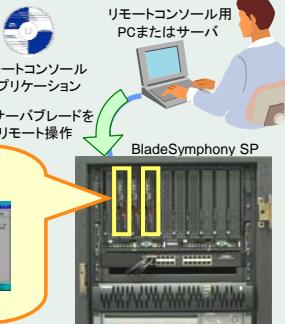
- メイン画面右上の[ログアウト]をクリックします。
- [はい]をクリックします。

5 A B C サーバブレードのWindowsセットアップ

BladeSymphony SPは、各サーバブレードのコンソールとして「リモートコンソール」を使用します。リモートコンソールは、各サーバブレードのディスプレイ表示やキーボード/マウス操作、電源ON/OFF操作、BIOS設定、OSインストールなどを遠隔地から実行することができます。なお、リモートコンソールの詳細な操作方法については、製品添付の「リモートコンソールアプリケーション CD」に格納されている「リモートコンソールアプリケーションユーザーズガイド」を参照ください。

補足 リモートコンソールは、描画速度が比較的低速です。サーバブレードのWindows起動後は、「リモートデスクトップ接続」等をご利用いただいた方が高速です。

＜リモートコンソールの使用イメージ＞



各サーバブレードのWindowsセットアップについて

以下の手順は、工場でWindowsをインストールするサービスをご購入頂き、工場設定値を何もご指定いただいている場合の、Windowsセットアップ手順を記載しています。お客様があらかじめ工場設定値をご指定いただいている場合は、以下の手順で表示されない、あるいは表示されても入手済みとなっているものがあります。また、OSなしサーバブレードをご購入され、お客様ご自身でWindowsをインストール、セットアップする場合は、製品添付の「BladeSymphony SP ソフトウェアガイド」の、「Windows Server 2008 のセットアップ」または、「Windows Server 2003 R2 (32ビット) のセットアップ」をご参照ください。

サーバブレードのWindowsセットアップ手順

① サーバブレードへのリモートコンソール接続

- PCまたはサーバのデスクトップ上にある「リモートコンソール」ショートカットアイコン(2章③参照)をダブルクリックします。
 - 右の「リモートコンソール」画面が表示されます。リモートコンソール接続先の情報を入力し[接続]ボタンをクリックします。
- ※の項目は入力必須
工場出荷時のデフォルト値は下記の通り
IPアドレス : 下記表参照
ユーザーID : user01
パスワード : pass01
ポート番号 : 5001
- セキュリティの観点から、出荷時のパスワードからの変更をお勧め致します。
変更方法は、マネジメントモジュールの「サーバブレード」のKVM設定画面から行ってください。詳細は「BladeSymphony SP ユーザーズガイド」を参照ください。



*1 4章③「管理LANの設定内容の確認」を参照

② サーバブレードの電源投入

- [Alt]+[G]キーを同時に押します。リモートコンソールツールバーが表示されます。[電源▼]をクリックし、[電源オン]をクリックします。[はい]をクリックすると、サーバブレードが起動します。



- リモートコンソールツールバーの[リモート開始]をクリックします。ツールバーが消え、サーバブレードのコンソール操作(ディスプレイ・マウス・キーボード操作)ができます。

補足 リモートコンソールツールバーの操作方法
「[Alt]+[G]キーを押すとツールバーの表示/非表示が切り替えられます。ツールバーが消えているときは、サーバブレードのコンソール操作ができます。ツールバーが表示されているときは、サーバブレードのコンソール操作ができません。本ガイドで使用するツールバーの各ボタンについて説明します。これ以外については、製品添付の「リモートコンソールアプリケーション ユーザーズガイド」を参照してください。

項目	説明
電源▼	リモートコンソール ログイン中のサーバブレードの電源を入れます。 強制電源オフ リモートコンソール ログイン中のサーバブレードの電源を強制OFFします。 リセット リモートコンソール ログイン中のサーバブレードをリセットします。 NMI 脱着時以外は使用しないでください。接続されているサーバブレードに対してNMIを実行し、強制的にメモリダンプを取得します。
C+A+D	リモート接続中のサーバブレード上で、[Ctrl]+[Alt]+[Delete]キーを1回押した状態になります。
接続先切替	他のサーバブレードにリモートコンソールを切り替えます。
リモート開始	サーバブレードのリモート操作を開始します。
リモート終了	リモートコンソールアプリケーションを終了します。

③ 各サーバブレードのWindowsセットアップ

各サーバブレードのリモートコンソールにログインし、Windowsセットアップ作業を行ってください。

Windows Server 2008 (32bit版) 編

■ HDDレスサーバブレード/管理サーバブレード(オプション品)共通

- 補足 これ以降、操作を間違えたときは、画面の[戻る]ボタンをクリックします。すると、一つ前の手順の画面に戻ります。該当する操作番号の操作手順に従って操作を進めてください。
- リモートコンソールで、該当サーバブレードに接続します。
しばらくすると[ライセンス条項をお読みください]が表示されます。
 - 内容を確認し問題なければ[ライセンス条項に同意します]をチェックし[次へ]ボタンをクリックします。
[ありがとうございます]と表示されます。
 - [開始]ボタンをクリックします。
[ユーズは最初にログオンする前にパスワードを変更しなければなりません]と表示されます。
 - [OK]ボタンをクリックし、「新しいパスワードおよびパスワードの確認入力」を入力します。
[SystemInstaller 構成マネージャ]が起動します。
 - [SystemInstaller 構成マネージャ]から必要となるコンポーネントをインストールします。「コンピュータ名とAdministrator のパスワード」が表示されます。
詳細については、「ソフトウェアガイドの「SystemInstaller」によるセットアップ」をご参照ください。
 6. 使用する環境に合わせて設定を行います。
 7. 必要に応じて、残りパーティションを設定します。

Windows Server 2003 R2 (32bit版) 編

■HDDレスサーバブレードの場合

- サーバブレードの電源ON後、Windows Server 2003 R2 (32bit版)にログオンします。
[サーバーの役割管理]、および[セットアップ後のセキュリティ更新]画面が表示されます。
- 使用する環境に合わせて設定を行います。

■ 管理サーバブレード(オプション品)の場合

補足 これ以降、操作を間違えたときは、画面の[戻る]ボタンをクリックします。すると、一つ前の手順の画面に戻ります。該当する操作番号の操作手順に従って操作を進めてください。

- リモートコンソールで、該当サーバブレードに接続します。

しばらくして[Windows セットアップ ウィザードの開始]が表示されます。

- [次へ]ボタンをクリックします。
[ライセンス契約]が表示されます。
- 内容を確認し問題なければ、[同意します]をチェックし[次へ]ボタンをクリックします。
[ソフトウェアの個人用設定]が表示されます。

補足 これ以降の設定作業の途中で[セキュリティの警告ドライバーのインストール]画面、または[ソフトウェアのインストール]画面、[ハードウェアのインストール]画面が表示される場合があります。[はい]ボタンを選択してインストールを続行してください。デフォルトでは[いいえ]ボタンが選択されているため、必ず[はい]を選択し直すよう注意してください。[いいえ]を選択すると、正しいドライバーが適用されません。

- [ソフトウェアの個人用設定]が表示されます。
入力後[Enter]キーを押します。

- 名前を入力します。必要に応じて組織名を入力します。

[次へ]ボタンをクリックします。
[コンピュータ名とAdministrator のパスワード]が表示されます。

- コンピュータ名を入力します。必要に応じてAdministrator のパスワードを入力します。
数分間設定が行われたあと、[ネットワークの設定]が表示されます。

補足 コンピュータ名、Administrator のパスワードは初期設定完了後でも変更できます。
設定したパスワードを忘れてしまうと、次回の立ち上げからWindows Server 2003 R2 (32bit版)にログオンできなくなります。その場合、Windows Server 2003 R2 (32bit版)を再インストールする必要があります。

- [ネットワークの設定]画面で[標準設定]か[カスタム設定]のどちらかをチェックして[次へ]ボタンをクリックします。

[標準設定]を選んだ場合は手順9へ進みます。

- [ネットワーククォンポーネント]が表示されますので、必要となるコンポーネントをインストールし[次へ]ボタンをクリックします。

- [ワークグループまたはドメイン名]が表示されます。使用するサーバ環境に合わせて選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

- 10.以降、インストール処理が行われます。
システム装置が立ち上げ直される。

- 11.システム装置立ち上げ後、Windows Server 2003 R2 (32bit版)にログオンします。
デスクトップが表示されるまで、「個人用設定」ダイアログが表示される場合があります。設定が終わるまでしばらくお待ちください。

12. [SystemInstaller 構成マネージャ]、[サーバーの役割管理]、および[セットアップ後のセキュリティ更新]画面が表示されます。

13. 使用する環境に合わせて設定します。

14. 必要に応じて、残りパーティションを設定します。

全ての作業が完了しましたら、リモートコンソールアプリケーションを終了してください。

6 C JP1/SC/Agentの設定

JP1/SC/Agentの設定

補足 本ガイド以外のマニュアルあるいは実際の画面では「ブレードサーバシステム」を「サーバシャーシ」、あるいは「サーバブレード」を「サーバモジュール」と表記している場合がありますが、それは読み替えて下さい。

リモートコントロールアプリケーションを使用し、各サーバブレードのWindowsシステムにて以下の操作で出荷時にインストール済みのJP1/SC/Agentの設定を確認および変更をします。

以下で説明するインストール作業は必ず管理者権限のあるユーザーで行ってください。

- 各サーバブレードWindowsで、[スタート]から、[すべてのプログラム(P)]→[ServerConductor]→[Server Manager]→[環境設定ユーティリティ]を起動し、[エージェントサービス]タブの、[登録/削除]をクリックします。

- [接続先マネージャサービス(IPアドレス/ホスト名)]に管理用PCまたはサーバのIPアドレスを入力し、[リストに追加]をクリックしてから[OK]をクリックします。

- [エージェントサービス]タブの[詳細設定]をクリックします。

- [複数IPアドレス構成時には使用するIPアドレスを指定してください]にチェック[レ]をつけて。
サーバブレードで管理LANに使用するIPアドレス(例では192.168.0.203)を入力します。
[OK]をクリックします。

5. [環境設定ユーティリティ]画面に戻りますので、[OK]をクリックします。

6. [サービスの再起動]画面が表示されますので、[OK]をクリックします。以上で、JP1/SC/Agentのセットアップは完了です。

7. その他のサーバブレードについても、JP1/SC/Agentをセットアップしてください。

7 C JP1/SC/BSMのセットアップ

JP1/SC/BSMのセットアップ作業手順

補足 本ガイド以外のマニュアルあるいは実際の画面では「ブレードサーバシステム」を「サーバシャーシ」、あるいは「サーバブレード」を「サーバモジュール」と表記している場合がありますが、それは読み替えて下さい。

1 用意するもの

サーバ管理ソフトウェア(JP1/ServerConductor/Blade Server Manager [JP1/SC/BSM])のCD-ROM

2 Windowsファイアウォール有効時のOS設定変更

JP1/SC/BSMおよびJP1/SC/Agentの動作するWindows上でWindowsファイアウォールが有効になっていると、管理用PCまたはサーバと管理対象サーバ(サーバブレード)間の通信ができます。ファイアウォールを有効にしている場合は、JP1/ServerConductorプログラムをファイアウォールの例外に登録をしてください。登録方法はJP1/SC/BSMマニュアル(3020-3-L52)の3.6.2節および各プロダクトのソフトウェア添付資料/リリースノートを参照ください。

3 JP1/SC/BSMのインストール

管理用PCまたはサーバに、JP1/SC/BSMのインストールCD-ROMをセットし、CD-ROM内の¥Disk1¥setup.exeを実行して、インストーラを起動します。以降は画面の指示に従ってインストールを進めてください。下記にインストール設定を進める上での注意事項を示します。

1. インストールするプログラム機能の選択

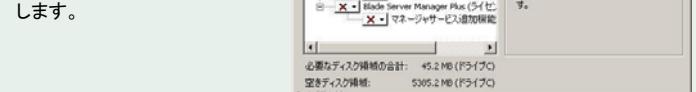
管理用PCまたはサーバとしてインストールする場合は

「コンピュータサービス」

「マネージャサービス」を選択します。

1. インストールするプログラム機能の選択

JP1/ServerConductor/Blade Server Manager - InstallShield Wizard

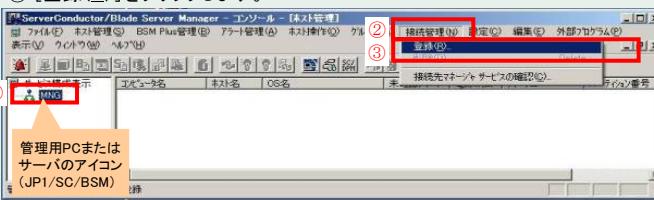


2. 環境設定ユーティリティの設定

「[コン

4. JP1/SC/BSMコンソール画面の[ホスト管理]ウィンドウに、ブレードサーバシステムのアイコンが表示されない場合は、以下の操作を行います。

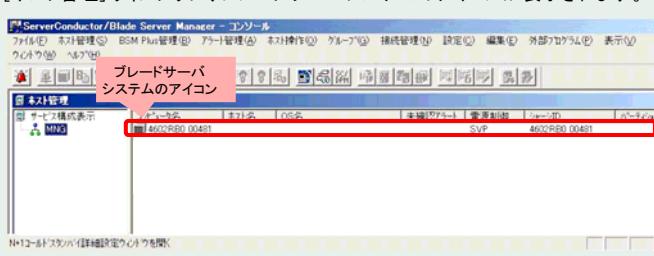
- ① [ホスト管理]ウィンドウで、管理用PCまたはサーバのアイコンをクリックします。
- ② [接続管理(N)]をクリックします。
- ③ [登録(R)]をクリックします。



[ホスト登録]画面が表示されます。

- ④ [登録するホストのIPアド] レス/ホスト名欄に、ブレードサーバシステムのマネジメントモジュールのIPアドレス（例では192.168.0.1）を入力します。
- ⑤ [種別]から、「サーバシャーシ/HVM」を選択します。
- ⑥ [OK]をクリックします。

[ホスト管理]ウィンドウに、ブレードサーバシステムのアイコンが表示されます。

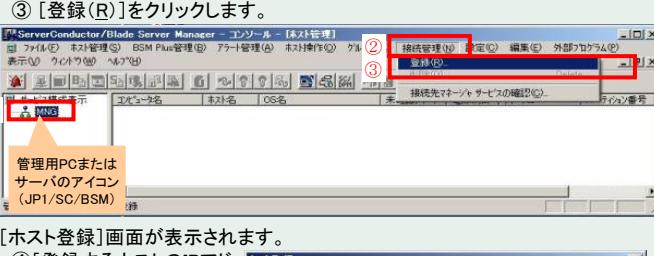


... 本操作を行ってもブレードサーバシステムのアイコンが表示されない場合は、以下を確認してください。

- (a) 管理用PCまたはサーバのコマンドプロンプトからブレードサーバシステムのマネジメントモジュールに対してPingコマンドを実行し、管理LANが正しく接続されているか確認してください。
- (b) マネジメントモジュールのIPアドレスは、マネジメントモジュールの「Blade Server Manager連携設定」画面で確認してください。
- (c) マネジメントモジュール側で、管理用PCまたはサーバが正しく登録されているか、「Blade Server Manager連携設定」画面で確認してください。

5. JP1/SC/BSMコンソール画面の[ホスト管理]ウィンドウに、**サーバブレード**のアイコンが表示されない場合は、以下の操作を行います。

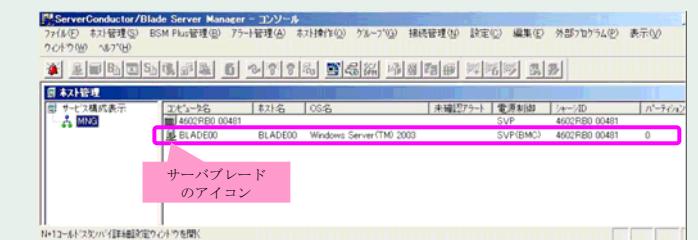
- ① [ホスト管理]ウィンドウで、管理用PCまたはサーバのアイコンをクリックします。
- ② [接続管理(N)]をクリックします。
- ③ [登録(R)]をクリックします。



[ホスト登録]画面が表示されます。

- ④ [登録するホストのIPアド] レス/ホスト名欄に、アイコンを表示させたいサーバブレードのIPアドレス（例では192.168.0.203）を入力します。
- ⑤ [種別]から、「エージェントサービス」を選択します。
- ⑥ [OK]をクリックします。

[ホスト管理]ウィンドウに、サーバブレードのアイコンが表示されます。



これでセットアップは完了です。各機能の使い方は「JP1/SC/BSM管理者ガイド」をご参照ください。

サーバブレードのアイコンが表示されない場合は、以下を確認してください。
 (a) 管理用PCまたはサーバの[環境設定ユーティリティ]にて設定を再度確認し、[OK]をクリックしてサービスを再起動してください。
 (b) 管理用PCまたはサーバのコマンドプロンプトから、サーバブレードのLANポートに対してPingコマンドを実行し、管理LANが正しく接続されているか確認してください。
 (c) サーバブレードを再起動してください。

8 A B C

電源の切り方

システム装置の電源切断手順

1 電源を切る

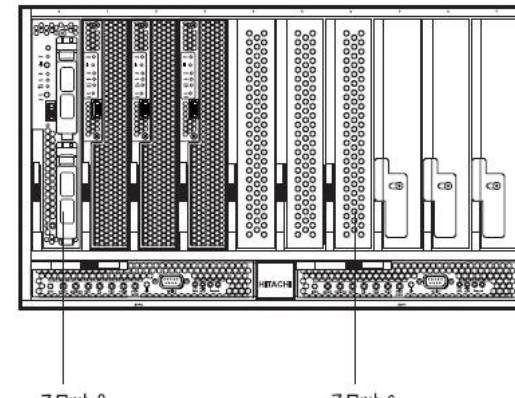
1. サーバブレードのシャットダウン
 サーバブレードのシャットダウンは以下のどちらかの方法で可能です。
 (a) リモートコンソールアプリケーションを使って、各サーバブレードにリモートログインし、Windowsをシャットダウンしてください。
 (b) JP1/SC/BSMコンソールの[ホスト管理]ウィンドウでシャットダウンするコンピュータを選択して、右クリックのメニュー「[電源OFF]」を選択すると確認画面が出ます。[OK]ボタンを押すとサーバブレードのシャットダウンを開始します。
 サーバブレードがシャットダウンすると、サーバブレード前面のPOWERランプがオレンジ色に点灯します。
 OSが正常に作動しなくなったときなど、サーバブレードのシャットダウン処理/パワーダウン処理ができないことがあります。この場合POWERボタンを4秒以上押し続けると、強制的に電源をOFFにすることができます。なお、強制的に電源を切った場合は、その後のOS・アプリケーションやデータが壊れる可能性があります。



2.iSCSIストレージのシャットダウン
 各サーバブレードのシャットダウンが完了した事を確認した後、iSCSIストレージのREADY LED/WARNING LEDが高速点滅していないことを確認します。
 iSCSIストレージ背面のメインスイッチを押し電源をOFFにします。
 (低速点滅:1秒毎に点灯/消灯を繰り返し、高速点滅:低速以上に複数回点灯/消灯繰り返し)

プロダクトシール貼り付けページ

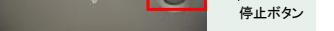
サーバブレードに添付されているプロダクトキーシールを、ブレードサーバシステムに搭載されているスロットNo. に該当する欄に貼り付けてください。
 ブレードサーバシステムのスロットNo. は右図のとおりです。



3.ブレードサーバシステムのシャットダウン
 各サーバブレードのシャットダウンして2分以上経過後、ブレードサーバシステムのマネジメントモジュールにログインします(4章①参照)。メニューから[シャーシ]をクリックし、「電源操作」の[シャットダウン]をクリックします。



4. UPSのシャットダウン
 UPSが搭載されている場合は、UPS(3台全て)の前にある「停止ボタン」をブザーが鳴り終わる(約2秒)まで押してください。「AC Input(緑)」、「Bypass(赤)」の点灯を確認してください。
 その後、さらに「停止ボタン」をブザーが鳴り終わる(約2秒)まで押してください。この時、「Bypass(赤)」が消灯し「AC Input(緑)」が点灯しているのを確認してください。



5.以上すべての機器の電源をOFFにしました。必要に応じてラックキャビネット外に出ている電源ケーブル(5本)を抜いて電源の供給を切断してください。

... サーバブレードをシャットダウンする際、マネジメントモジュールではサーバブレードをシャットダウンした後に状態変更の処理を行っています。
 このため、UPSによるBladeSymphony SPの電源の切断を行う場合には、全サーバブレードをシャットダウンした後、2分以上の時間をおいてからシステム装置の電源を切削してください。